



夕張市長選挙 予定候補者への公開質問

日本共産党夕張市委員会では、4月23日に迫った夕張市長選挙に向けて、現時点で出馬表明をされているお二人に公開質問状をお渡しました。それに対し、両予定候補からそれぞれ回答が寄せられました。『民報 ゆうばり』に全文を掲載することの了承を得ておりますので、回答の全文を掲載いたします。

A. 市政に臨む基本姿勢について

私たちは自治体首長について、次の4つの基本姿勢をもって市政に臨むべきと考えます。この4つの基本姿勢について、あなたのお考えをおきかせください。

1. 日本国憲法、地方自治法を尊重し、地方自治の拡大に努力し、市民参加による「住民こそ主人公」の市政
2. 「夕張市非核・平和のまち宣言」精神に則って核兵器禁止条約批准を政府に求め、核兵器のない社会を目指す市政
3. 特定の政治勢力に組みせず、無党派無所属を貫き、公正な立場を貫く市政
4. 社会保障費削減等の国の政策に屈せず、住民の福祉向上のために力を尽くす市政

厚谷 司 現市長



- ・日本の最高法規である日本国憲法順守、法令順守のもと不偏不党かつ公正に職務の遂行にあたってまいります。
- ・「夕張市非核・平和のまち宣言」の精神を尊重します。

佐藤 学 市長予定候補



1. 今、市民と行政の対話不足から市民に不安や不満が広がっています。主権者である市民との対話は市民の代表である市長の責務であり、常に市民の声を聞く場をつくり、市民に寄り添う市政を目指します。
2. 夕張市はすでに非核・平和の街宣言を行なっていますが、核兵器のない社会、恒久的な平和に向けて議会とも協力して、国に対して核兵器禁止条約への批准を求め核兵器のない世界を目指します。
3. 夕張市は人口減少に歯止めがかからなく、多くの地域課題を抱える中で、次世代に希望の見える夕張をどう作り、継承していくのか我々大人が目の前にある課題と本気で向き合わなければならない状況であり、特定の政治勢力や団体などに組みせず、夕張市民みんなで丸となって知恵を出し合う市政を目指します。
4. 社会保障費は夕張市単独で交渉できることではないですが、常に市民生活の実態を把握し、北海道と連携して国に必要な見直しを求めています。また、社会保険料や国民健康保険料は、利用者が申請しなければ減免されないものがたくさんあります。そうした申請もれを無くすだけでも自己負担軽減につながりますので、分からない方へも積極的に情報を提供する市民にやさしい窓口対応に取り組みます。

B. 財政破綻と夕張のまちづくりについて

4年後には実質的に財政再生団体を卒業予定ですが、財政再建・再生団体入りの経験から、夕張はどんな教訓を得たと思いますか。そして財政再生団体脱却後、どんな夕張を目指しますか。

厚谷 司 現市長

佐藤 学 市長予定候補

《教訓》

- ・財政規律の遵守
- ・徹底的な財政状況の開示・情報公開
- ・行政依存からの脱却

《まち》

・夕張市は炭鉱というモノカルチャー経済であったことから、大きな衰退を招いた経緯があり、今後も単一産業、単一企業に依拠することなく、引き続き農業、商工業基盤を維持していくことが必要という視点で地域振興を考えていくこと。

炭鉱の閉山により主要な産業を失い、急激な人口減少が60年以上も続く夕張市。観光事業の失敗による財政破綻と言われてきたが、今もなお閉山対策が続いている。

財政破綻での教訓は、地方自治のあり方や残った市民で責任を負っていくということの過酷さ、そして、これまで多くの方々の支援によって、財政の再生を終えようとしているということの他に、世代によって異なる感情が残っているということである。

こうした感情が交錯する中で、新しいまちづくりをどう進めていくかであるが、夕張市の歩みや地域課題は人を育てる資源であり、新しい仕事にもなる。夕張市は「周回遅れでありながらトップランナーである」との自負を持って、多様な知恵を取り入れながら、市民と一丸となって新しい夕張を築いていきたい。

昨年末から今年にかけて、私たちは「市政アンケート」を実施しました。その結果から、市民は、まちづくりについて下記の4つの願いを強く持っていることがわかりました。また、こうしたまちづくりのための具体的な要望も寄せられています。については、それぞれの項目に対する、あなたのお考えをお聞かせください。

ゆうぱりをこんなまちに C.市民が願うまちづくりについて

I. 住み続けたい安心のまち
III. 子育てを応援するまち

II. 豊かな文化交流のあるうるおいのまち
IV. 子どもの笑顔があふれるまち



I 「住み続けたい安心のまち」づくり

1. 社会保険料の軽減
2. 地域防災体制の確立
3. 街灯・防犯灯の整備
4. コミュニティバス・乗り合いタクシーなどの公共交通の充実
5. 認知症を予防する補聴器購入に対する補助
6. インターネット環境の充実
7. 移住者への魅力発信と支援
8. 有償ボランティアの推進と支援

厚谷 司 現市長



・地域防災体制の確立については、消防団の定員割れという課題もあることから、地域防災組織の設立に向けた機運醸成が必要と考えています。

・防犯灯の整備、補助に限らず、財政再建計画策定時に廃止した各種補助については、廃止から年数を経過し、また新たな取組等の芽生えもあることから、このことを踏まえた検証は今後行っていく考えです。

・高齢化率の高い本市において「公共交通施策」は、最重要課題ととらえております。しかしながら交通資源には限りあることから、「公共交通等実態把握調査」の結果を踏まえ、できる限り実態に即した公共交通体系となるよう努力してまいります。

・インターネット環境の充実につきましては、光未敷地域への対応には大きな課題（将来にわたる居住人口の減少、契約件数確保、膨大な敷設経費）があることから、費用を抑えられる代替策の調査・検討を行う考えです。

・既存メニューの他移住・定住策の制度設計について検討します。

・補聴器の補助につきましては、引き続き研究をすすめます。

佐藤 学 市長予定候補

1. 夕張市単体での実施は難しいため、北海道と連携を図りながら国への要望を行います。なお、市民の負担軽減策につきましては、経済情勢を踏まえ他の手法を含めて敏速に対応します。

2. 地域における自助・共助をサポートしながら、災害時の職員対応力の向上を図ります。また、災害や倒壊リスクある戸建て住宅から市営住宅へ移転を促進するなど、市民の命を守ります。

3. これまで多くの要望を受けながら改善されていませんが着手します。なお、町内会活動とも関連することから、各地域ともしっかりと対話をしながら進めていきます。

4. 現在、不安が広がっている夕張と札幌を結ぶ移動手段については早急に対応策を示します。また、市内における交通は路線バスの他に買物に便利な待ち時間の少ないコミュニティバスの導入などにより充実を図ります。

5. まずは、国において保険適用すべきものと考えますし、必要な要望を行っていきます。

6. インターネット環境は、新しい技術によって、これまで未整備であった地区への導入の可能性が広がっており、積極的に推進していきたいと考えています。

7. 移住政策はこれまでない発想で推進します。行政主導ではなく民間組織を中心の取り組みに転換し、空き家情報、仕事の情報、夕張を拠点にした北海道で遊びや季節移住の提案を積極的に発信していきます。民間組織は新たな仕事になりますし、国の制度の活用や市による予算措置によって継続的に推進していきます。また、夕張は新千歳空港からの距離においても移住者を受け入れやすい立地であり、移住者が地域で使う生活費用はおおよそで年間200万円と言われております。この他にも地域の魅力を増やすことによって『外から入ってくるお金を増やす』これが可能となります。

8. 高齢者や障害者の方々が活躍できる環境づくりに有償ボランティア制度が有効だと思います。市役所の仕事の中には職員でなくても出来る仕事がたくさんありますし、安定的に発生する仕事（広報の折込や配付など）もあります。市内の福祉事業所でも取り組み事例がありますし、総合窓口機能の設置によって、助け合いや活躍の場が広がります。